

令和4年度第1回 豊川市子ども・子育て会議 会議録（要約）

令和4年6月27日(月)

午後2時00分～午後3時30分

於：こざかい児童館 遊戯室

1 委員等紹介

(略)

2 あいさつ（会長）

白垣会長によるあいさつ

(略)

3 議事

(1) 子ども・子育て支援事業の進捗状況について（令和3年度実績）（報告）

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・ざっと言うとコロナの影響はあるけれども計画は計画どおり進んでいるという報告ということでよいか。

(事務局) コロナ禍前の水準には戻っていないものもあるが、コロナの影響を受けていないものについては概ね順調に進んでいるという状況。

- ・「定住外国人の子どもの就学支援」において、新1年生を対象としたプレスクールでは親子で学ぶ形式できめ細やかな支援を行ったことですが、引き続き今年度も親子で開催されているのでしょうか。自分の担当している小学校でも親がなかなか日本語ができなくて、先生と意思疎通が図れないという家庭もたくさんある。子どもたちも日本語が覚えづらいことがあるので、これはいいことだと思ったので引き続きやっているといいと思う。
- ・私は、現在、在日ブラジル人・ペルー人の子どもの教育問題についての文科省の研究を進めていて、この（親子での）取組みは今年度も引き続き行われていると思います。私の方でも実際に公的機関から通訳をお願いして、学校から親に伝えようとして翻訳したプリントなどを配布したりしても、文化の違いで親が受け取ってもらえなかったり返事がもらえなかったりするのを、どうやったら上手くできるかということで研究している。国としては、外国人児童は日本語と日本語文化さえ学べば日本にフィットできるはずだという前提であるが、現場の先生からすればそんなものではなく、日本語だけでなく、文化や生き立ち、生育の環境などがとても大きく影響している。何かお困りのことがあれば、研究を通してフォローできる。

- ・「特別支援教育の充実」について、非常勤講師とパート職員の人数が載っていますが、実際に学校に授業を見させていただいたときに、1人の先生がそれぞれの特別支援の生徒の教室に行っている。1時間の授業の中で、支援の先生が（生徒から）離れてしまっている時間が結構多いので、実は離れた間に生徒は授業をポカンと聞いている状況もあるので、できればこの支援の先生がもっと増えるといいと思う。
- ・これも私の専門なのでお話しすると、これって実は家庭との連携の問題もあり、学校なり保育園なりからの「ちょっとお宅のお子さん気になるんですけど」ということについて、「わかりました」と言って専門機関にかかって診断書などを持ってきてくだされば、何とか法的に加配の先生が付いたりできます。場合によってはそれを基に特別支援学級に転籍とか措置替えをするんですけど、特別支援学級でも1人の先生に対して8人の子供の数というのが法定で決まってしまうので、それを障害種別の違いによってクラスを分けられるので、例えば3クラス作って実際には合同でやっていて、中で協力してうまく運用している学校もあるが、これが本当に難しい。
- ・今の話もありましたように実際の運用としてはもっと特別支援の先生方は苦勞している。法定の人数は8人になっているので、本当にその子1人1人に目を向けて声を掛けたり指導していかなければいけない。1人の先生が全8人の個々の特性をすべて見極めながら、授業するというのは苦しいので、できましたらこうした支援の先生の数をもっと倍くらいに増えていくようにしていただけると本当に助かると常々感じている。うちの学校においても3クラスあり、人数にかなりバラつきがあり先生によっても負担がかなり違っている。そういった中で支援員として配置される先生が増えることによって本当にきめ細やかな指導ができるようになるのでぜひ増やしていただきたい。
- ・もしこの会議で「増やしていただきたい」という要望を出したら、議事録なりに載せて議会でも決議してもらえるといいんですけど、私としても本当に国を動かすのは難しいんですけど、地方版の子ども・子育て会議では意見だけは言うことができる。少しずつでもいいので、5～10年のスパンでも変わってくればいいのかと思うので、ぜひお願いしたいと思います。
- ・「食育の推進」の中で、児童生徒の朝食の喫食状況などを掲載したとあるが、どんな状況なのか分かれば教えてほしい。

（事務局）朝食の喫食状況について昨年度の数字では、「毎日食べる」が小学生で84%、中学生で72.1%、逆に「食べない」が小学生で0.7%、中学生で3.3%となっています。

- ・ 豊川市において、「ヤングケアラー」についてどんな考えで、市内の小中学生でヤングケアラーにあたる人がどれくらいいるか把握がされているのでしょうか。

(事務局) ヤングケアラーという言葉が新聞紙上を賑わしており、言葉や数字が先行しているように感じる。というのも「世話している人」は何パーセントいますか？というところを取り上げられ、県だと5年生ですが6人に1人という数字が大きく出ている。現在、豊川市では県が行った調査のデータを豊川市の部分だけ抜き出して集計をしている最中。今後については、県が先行して色々やっ払いこうと立ち上げており、例えばモデル事業として市町村3つくらいに手を挙げてもらって、どんな支援を行うかを県のメニューに沿って2年と数か月やってきており、また、8月にはシンポジウムが、9月以降には研修が行われる。豊川市でもヤングケアラーで把握しているのは、要保護児童地域対策協議会のケースで昨年度10世帯くらいあるかと把握しているところですが、それ以外のところは実は分かっていません。相談もあるようでない。ヤングケアラーがそんなに実は見えていない状況なので、支援策といってもなかなか出せない状況。今のところは県の色々なメニューを活用しながら考えていくこととなる。

- ・ 少年愛護センターの心理相談について、相談件数が増えていて月2回の相談が何か月も先になってしまうというのは前から聞いているが、月に3回になるというのは具体的にいつまでにできそうというのを周知させていただくことができると思う。何年も前から引きこもりの相談などで相当言っていると思うが、成果が出ていないというかあきらめちゃう、相談をやめてしまうということを知っている。本当に回数を増やして欲しいので、具体的な時期を教えてください。

(事務局) 月3回への変更は、すでに4月から開始していて、従来の第2・第4水曜日に加えて第1水曜日を追加して実施されているが、予約が結構入っているということです。本日、出席者に教育委員会の職員はいないが、この件についてはお伝えする。

- ・ 給食に関して、アレルギーの子でもいると思うが、宗教上の理由で給食を食べられない子がいるということを知っている。食べられるのは例えば白米だったりとか、今の豊川市では外国人の子どもたちが多いと思うが、そういった多様性によって食べられるもの、食べられないものがあることによって、子どもたちの栄養面で偏っているのを感じており、色々な理由で食事がとれないという子たちのために、豊川市として何か対策をされることはあるのでしょうか。

(事務局) 保育園の現場での話として、豊川市内の保育施設には保育課に配属している管理栄養士が、モデルとなる給食の献立を作成して、この献立を基に給食を提供してくださいということでやっている。民間の保育園の中には園ごとで考えられて給食提供をしているところもあれば、幼稚園では弁当を業者から買って提供しているところもあるので、一概にすべてが栄養士さんの情報に基づいて提供されている訳ではない。公立では、献立を立てるには立てるが、宗教上の理由だけでなくアレルギーや外国籍の子で食べ物の習慣が合わず全然口にできない子もいますので、柔軟に対応して食べられるものを食べてもらったりおやつ等で栄養を補ったりなど、無理に食べさせないような指導をしている。保護者の方と相談しながら、どういったものがその子にとっていい給食なのか、栄養の摂取なのかを相談しながら対応している。ただ、食材は一斉に発注・調達しているので、全部が全部、保護者のご希望のとおりにはならないというのでも否めない。

・親の希望というよりは親に用意してくださいという想定でお願いしていくしかないということもあるのですか。

(事務局) そういうところもある。給食を選べるような宗教的にもハラルとといった対応ができていない訳ではない。

・「ふれあい体験の実施」について、これは小さなお子さんを連れた親子が、訪問をして小学生と親子（赤ちゃん）と触れ合うという機会なのかと思いますが、目標値（実施校数）が31で新型コロナの影響もあり少ないのかと思います。実際に赤ちゃんに触れるのは子どもたちにとって大事な機会だと思うので増やして欲しいと思いますが、豊川市では「赤ちゃん先生」という民間の方々が動いていて、小中学校で親子の触れ合いをしていると聞いています。そちらは民間なのでリモートで画面越しに赤ちゃんに触れ合う機会もあったと聞いているので、競合するところもあり数字上は全部の学校というのは難しいでしょうが、その数字も示していただけると色んなやり方でそれぞれの学校で、小さなお子さんに触れていることが分かったと安心かと思うので、その調査もしていただきたい。

(事務局) ご要望として伺います。

(2) 令和4年度保育所整備事業について（報告）

【事務局説明の後、委員からの質疑・意見なし】

4 その他

(事務局より)

- ・ コロナ禍における物価高騰対策としての保育所等の給食費無償化事業
- ・ 産前産後サポートセンター「くるみ」
- ・ 豊川市こども食堂運営費補助の状況
- ・ 次回の会議の予定について。